

## 語りによる20代未婚女子の幸福の物語 同居という生き方が選択されたわけ

山尾 美奈

### 0.問題関心

近年、パラサイト・シングルやフリーターという言葉を目にするようになったが、これらの言葉は[自立できていない]代名詞のようにマイナスのイメージとして使われている。パラサイト・シングルとは、社会学者の山田昌弘氏が作った造語であるが、山田氏のいうパラサイト・シングルの定義は、「学卒後もなお、親と同居し、基礎的生活条件を親に依存している未婚者(男女)」(山田 1999:11)のことである。また平成7年全国国勢調査、親子の同居等に関する特別集計結果によると、以下のようになっている。

年齢別にみると、20歳未満で親と同居している人は、2742万人(20歳未満の者の96.0%)、20歳以上は2588万人(20歳以上の者の26.7%)である。また、平均初婚年齢に近い20~39歳の未婚者についてみると、親と同居している人は1185万人(20~39歳の未婚者の67.6%)と全国の人口の1割近くを占めており、親との同居率もかなり高くなっている。(総務省統計局 平成7年国勢調査 親子の同居等に関する特別集計結果 2000.9.14)

このように、20~39歳の未婚者に限ってみても1185万人と、全国の人口の1割の人が占めており、親と同居している成人未婚者は決して少なくない。そして宮本によると、「親元にとどまることによって、余裕ある独身生活を享受しながら就業生活の基礎を固め、家族形成への準備が可能になっている。このような内実を持つ脱青年期の親子同居はミドルクラスのライフコースパターンとなっているが、必ずしもミドルクラスにとどまらず広く浸透している」(宮本 1997:123)ようだ。このように経済的に依存できる親の経済基盤が一部に限らず、広く浸透している。

しかし、実際に親と同居している成人未婚者は、自身の立場をどのように捉えているのだろうか。2002年未婚20代松本調査の五十嵐の報告によると、「20代未婚者の経済的自立意識は、年齢よりも就労状況や年収と、離家経験よりも同別居で差がみられた。また、自立の理由として『就職』や『給料で自活できるようになった』ことが多く占めている。」(岩上・宮本 2003:29)ようだ。若者にとって経済的に自立したとを感じる要因は就職が1番で、続いて自活できる給料になることである。よって若者自身の主観的では[基礎的生活条件を親に依存して=自立していない]というようには意識しないようである。では経済的に依存せざるをえない生活をしている若者なら、自身をどう捉えているのだろうか。

これまではパラサイトすることを経済的な側面で説明される傾向が強かったが、本稿で

は経済的な部分ではないその他の要因に注目したい。そして、同居という選択を行った後で、当事者は同居という生き方をどう捉えているか、当事者の立場で同居という生き方の詳細をみていきたい。

## 1.研究目的と仮説

では経済的な側面ではないその他の要因とは何なのか。大久保は、以下のように述べる。

近代日本における「成功の物語」(努力して上昇する物語)は、当初、『西国立志編』として西洋から輸入されたが、大正以降は、「野口英世」伝が和製「成功の物語」の聖典としての地位を獲得した。しかし、「成功の物語」とは裏腹に、日露戦争後の日本では、石川啄木が「時代閉塞の現状」で指摘したように、不況と学歴のインフレによって学歴に相応しいだけの社会的地位を獲得できない人々(遊民)の存在が問題となっていた。当時の文壇の主流であった自然主義の作家たちは、「挫折の物語」(努力したが上昇できない物語)や「墮落の物語」(怠惰なために上昇できない物語)を生きる人々を描いて、そこに人生の真実をみようとした。しかし、庶民の多くは自然主義の作家が描く「みじめな現実」を直視することを好まなかった。彼らが必要としたのは「成功 幸福」をテーマとする「幸福の物語」であった。社会学者ミルズは『ホワイト・カラー』(1951年)の中で「諦めの文学」について述べているが、それは「成功の物語」の対抗文化としての「幸福の物語」の別名である。(大久保、<http://www.f.waseda.jp/ohkubo/2003S9-6.htm> 2003/10/2)

これは成功だけが幸福ではないという、成功の物語を「諦める」幸福の物語である。なお、「諦める」ことが幸福の物語である構造自体は大久保氏のいうのと同じだが、私が本稿で述べる成功の物語の定義は、はじめに立てた第1目標が達成されれば、成功の物語とし、成功の物語を「諦める」、第2、第3の目標に変更することを幸福の物語とする。ここでは、当事者が語る「成功の物語」・「幸福の物語」をみる。そして不成功している現在を不幸だと感じず、目標を変える、諦める事で、人は自分の思い描いたライフコース(=成功の物語)を歩めなくても、諦め(=幸福の物語)である第2、第3のライフコースを歩むことに、どのような語りのレトリックを用いて、人生を合理化させていくのかをみていく。

これから明らかにするのはまず第1に、なぜAさんは成功の物語からはずれるのに、自分を不幸に感じないのか。そして、第2にどうしてBさんは成功の物語を歩みつづけられるのか、ということである。

## 2.調査概要

T県で学卒後、親と同居している20代未婚男女にご協力頂き、インタビューを行なった。インタビューをさせて頂いたのは、AさんBさんCさんであり、三名の簡単な特徴は以下

の通りになる。なお、今回の分析では A さんと B さんを比較する形で分析するので、C さんの事例は省略する。

- 表 1：インタビュー調査 -

	年齢	性別	最終学歴	現在の職	目標	インタビューの年
A さん	22 歳	女	短大：専攻国文学	公務員臨時職	公務員	10/28
B さん	22 歳	女	短大：専攻電子オルガン	Y 会社の受付のアルバイト	Y 会社の講師 + 自宅で講師	11/9 11/18 12/18 1/15
C さん	29 歳	男	高卒	自宅でイチゴ農業	継続	9/13

## 2-1.分析の対象の基準

本稿で分析したい事は、親と同居している成人未婚者がどのような収入源で親にいかほどの経済支援をうけているかというような、経済的側面を見たいわけではなく、その他の側面であり、当事者が自身の立場をどのように捉えているかである。そのため経済的メリットがより顕著な学卒後就職をしていない若者を対象に分析した。

### 2-2.A さんの紹介

A さん(22 歳)：母親が 24 の時、父親が 31 か 32 の時の子ども

職業：臨時職員(1 年契約：1 年ごとに試験を受けて受ければ臨時職員になれる)現在 2 年目

家族構成<sup>1</sup>：母、祖母、父、弟(19)、A さん

父親の職業：公務員

母親の職歴：子どもが産まれたら仕事をやめるといふ、再就職を繰り返している。

A さんは親と同居、弟は県外の大学へ

小学校 中学校 高校 短大(専攻：国文学)県内の短大

性格：1 つのことをずっと続けられない(飽きっぽい)

：新しい環境になじめない

：本が好きで、一貫して本にかかわる仕事に興味を持つ

友達：地元にいるから、今までの友達がいる。

仕事を選ぶ基準：絶対保険代を会社が組んで支払えるところ

仕事内容：仕事の内容の割には多分高額な給料。簡単な雑用

職場：臨時であるから大目にてくれ、友達から聞かされるいじめもなく割とあっている

臨時職：最高で 3 年までしかうけられず、今年の会社試験<sup>2</sup>に受ければ続けたいが、公務員人気で臨時職すら競争が激しくなり、次も受かるかどうか分からない。(前年 1000 人受験

<sup>1</sup> なお家族構成は、本人が述べた順番で記述している

<sup>2</sup> 1 年契約で任用される、臨時試験の採用試験

者がきて、そのうち 300 弱ぐらいが通るらしい) 臨時職が駄目だった場合、現在仕事が忙しいのでまた後で他の先を考えると思っているが、ぼんやりとは郵便局か本屋で働きたい

弟への期待：親は自営業でもないが長男に強く家をついでほしいと考えている。

父親との関係：不仲。A さんの弟が結婚する時は出て行けといわれている

母親との関係：良好。母親のライフコースが A さんにとって理想のライフコース

同居をする理由：今の給料ではとても一人暮らしできないから(経済的理由)

### 2-3.B さんの紹介

B さん(22 歳)：母 25、父 24 の時に生まれる

職業：Y 会社の事務のアルバイト(ただし事務の正社員になる気は全くない)現在 Y 会社の就職試験を受けず、グレード試験の勉強をしており、Y 会社のエレクトーン講師 + 自宅で講師を目指している

家族構成：ペロ(犬)、B さん(22)、弟(20)、妹(14)、母(47)、父(46)

弟：専門学生、県外へ進学するが、県内の就職先に決まって来年戻ってくる。妹：中学生

父親の職業：公務員(郵政職員)

母親の職歴：資生堂の美容部員(正社員)だったが、B さんを出産したため退職。現在は郵便局のパートをしている

B さんがエレクトーン(電子オルガン)を始めた年齢：5 歳から

小学校(金管 4~6 年、水泳 5 年まで、習字) 中学校(水泳、ピアノ) 高校(バトミントン) 短大(サクソ)

進学 短大(専攻：電子オルガン)県内の短大

両親との関係：良好。家でエレクトーンの講師をするなら、自宅でしてもよいといわれる

同居をする理由：経済的な面もそうだが、1 番の理由は自宅でないでエレクトーンの練習が出来ないため、Y 会社に入っても一人暮らしをする予定はない。

### 3.【事例その 1】A さんの分析 A さんはどうして自分を不幸と感じないのか

A さんは公務員を目指しており、現在は臨時職をしている。臨時職は 1 年ごとに更新試験があり、A さんは 2 年目である。つまり A さんの成功の物語は公務員になることである。では実際にインタビュー調査で得られたデータを基に、A さんの事例を見てみる。

#### 3-1.A さんのライフヒストリー

[ A さんが都会へ行かず、現在の臨時職に至った経緯 ]

A さんがマスコミ業界への就職のため県外へ出て行く事が出来なかったのは、「自分が新しい環境になじめない性格だから、都会に馴染めそうもない。ホームシックにかかって、帰りたと思う事が目に見えている。」と語る。そして「マスコミなら、塾に行くのに都会に行こうとは思ったりしなかったのですか。」と聞くと、A さんは、「そのためもあって、

マスコミ断念したんよ。」と説明する。マスコミを断念してから、地元で本にかかわりのある仕事がしたいと考えたAさんは、田舎で本と関われる職ということから、高校の時、図書館司書の公務員になりたいと思った。「短大に進学したのも、その資格免許をとりたので就職でなく進学を選んだ。」という。しかし、授業数が多くなることと採用枠が少ない事でAさんは、図書館司書はあきらめた<sup>3</sup>。しかしこれをきっかけに安定している、公務員という仕事に興味を持つこととなる。

また、「公務員に興味を持ったきっかけって、父親が公務員だからというのは影響してますか。」と質問しても、「全く関係ないです。」と答え、「自分の周り(短大)の友達で、誰か公務員を目指している人がいて影響されたのですか。」と聞いても、「そういう子は周りにはいなかったです。」と、父親が公務員だからとか、友達が周りで公務員を目指していたからという影響は全くなく、「安定しているということもあり、自分で公務員になりたいと思った。」という。つまり、Aさんの成功の物語は、公務員になることが目標であった。

そして保険は絶対支払わなければいけないと母親から強く影響を与えられていたAさんは、成功の物語をなす為に公務員浪人をする事は全く考えておらず、受かっていた臨時職員になる。しかし、Aさんは「(卒業してから)1年目は勉強を結構やっていた」と答えるが、2年の歳月を経て、「公務員になるのは自分の実力ではほぼ無理だと諦めている。」と答える。そして後半年で臨時職員の契約も切れるので再び更新はするつもりだが、「最近公務員人気で、それすら受かるか分からない。」と答える。Aさんは、もし臨時職採用試験に受からなければ仕事さえもなくなってしまう状態であり、自分もそうなるかもしれないと感じている。しかし、Aさんは「現状に満足しており、将来に対して不安を感じていることはない。」と答える。なぜ、Aさんは自分を不幸に感じず、現状に満足できるのか。それをとく鍵は、以下で述べる、「公務員にはなりたいたいと思っているが、正社員よりは臨時やパートのような期限があるほうがいい。」と語った所で分析できると思われる。

### 3-2.Aさんの発言の矛盾

質問：ええとー。最初っから公務員を目指していたんですか？

A-1：そうですねー。最初っから公務員ですね。ちょっと今安定している<sup>4</sup>ってこともあって、(中略)まああとー、結婚した後も続けられるっていうのが大きいメリットかなあ。(略)公務員だったら結婚して離婚しても暮らしていけそう。それが大きな要因かな？子どもがおっても男の人と同じくらいの給料だし・・・(2003年10月28日インタビュー録音 MDトラックマーク：4-5)

A-2：多分ね、わたし結構飽きっぽいから、母親とか父親みたいにそこで何年も働けていわれたら無理なんよう。

<sup>3</sup> しかし、インタビューをした時は、図書館司書の授業単位をとるのは大変だから取るのをやめたという話は最後までされず、「短大って2年間しかないし、授業単位数取るのって大変だったんじゃないんですか。」と聞いても、「教職なんかの資格免許をとる子以外は楽そうにしてたよ。」と答えていたのでインタビュー中は分からなかった。それは後日分かったことである。

<sup>4</sup> 線を引いているところは、特に注目してほしい点である。

多分1年間っていう、期限があるから多分働けるんだと思うんだけどぜんぜん終わりが見えなかったら、多分嫌になった時点でやめちゃうと思う。うん。(2003年10月28日インタビュー録音 MDトラックマーク 50-53)

#### [注目点]

公務員を目指すのは、A-1の「安定」と、「結婚して離婚しても暮らしていけそう」という「収入が安定している事」が大きな要因だと述べるにもかかわらず、今臨時を続けていられるのはA-2の1年間という限られた期間だからと語る。しかし、それは「安定」とは全く正反対のことをAさんは望んでいる。これは、いったいどういうことなのだろうか。

### 3-3.Aさんが公務員(仕事)に求めていたこと

質問：じゃああまり正社員になりたいかと思わないんですか<sup>5</sup>？

A-4：多分、そうなんかもしれん。(笑)うん。

質問：じゃああんまり安定って思っていないんじゃないですか？

A-5：あー。や、でも公務員にはなりたいはなりたいんやけど、どうなんやろう。なんかすごい矛盾しているよね。まあ今家でおったら、切羽詰って正社員になってバリバリ稼ごっていう気持ちにならなくていいからね(略)でもまあ公務員だったら、自分の仕事さえしといたら、結構好きなときに休みが取れたりするからね、

質問：じゃあ、安定ていうのもあるのかもしれないけど、むしろ自由がきくっていう方が大きいのかも？

A-6：(中略)そう。そうかもしれん！多分それがウエイト占めているんだと思う。うん。だって今も結構、残業ないからね。臨時は。帰ってきたら自由、略 まあ有給も自分の仕事だけ、しとって、ちょっと暇になったなーって思ったらとってもいいから。やっぱり自由を求めているのかな、私。あうん。たぶんそうやな。

質問：結婚自体もこう、パートして働いても収入が得られる自由さがほしい、から？

A-7：うん、たぶん、そうだと思う。するどいね。うん。多分そうだわ私。だから、多分自由のきかない正社員になるよりかは自由がきくパートの方がいいって、たとえ給料少なくてもいいからな、うん、多分そうなんだ、

#### [注目点]

公務員(安定)と臨時職員のような期間限定の職(不安定)という矛盾する関係に見えるが、A-4からA-7を見て取れる共通する特徴として、「安定」よりも「自由がきく」という点にAさんは大きくウエイトを置いていることがインタビューをしていくうちに明らかになった。これは、Aさんは「公務員だったら、自分の仕事さえしていたら、結構好きなときに休みが取れたりする。」という考えを持っているからである。そして、「臨時は残業ないからね。」「自由のきかない正社員になるよりかは、自由がきくパートの方がいいって、たとえ給料少なくてもいいから。」というセリフから、給料の減額はAさんの幸福には関係しないように語っており、自由がきくならAさんは幸福に感じるように語る。

またAさんに、「結婚したら、夫に家事をしてもらいたいですか。」と聞くと、「家事は自分がする。料理するのが好きだし、でも、たまに掃除はしてもらいたいかも。」と答える。そして、「T県の保育所は働くお母さんの事情にあってないから、自分に子供が出来たら無認

可保育に預けると思う。」というように将来働きながら家事を両立させるといふ、しっかりした将来の自分の姿を語るにもかかわらず、それを実現できていない、今という「自由がきく」状況に満足を感じていると語っている。しかし、本当に不安がないのだろうか。

### 3-4.本当に不安がないか

当事者自身が公務員になるという成功の物語は殆ど無理な状態だと「諦め」ている。また、子供の友達に「お母さん若いね。」と言われたと思っている A さんは、結婚の理想としては 25 歳までには、結婚したいと考えている。しかし絶対恋愛結婚がいいと考えている A さんは、30 歳までは恋愛結婚で頑張りたいと語る。しかし、現在付き合っている男性はいない。そして、現在 3 つ下の弟が大学にいつているが、おそらく弟は最短で後 3 年間で戻り、その時は A さんは 25 歳になっている。そして、A さんの弟は高校の頃から付き合っている女性があり、A さんの弟が結婚したら、長男に家を継いでほしいと考えている父親に、「弟のお嫁さんが家に来にくくなるから、弟が結婚したら出て行け」といわれている。その頃に「A さんに結婚の兆しがあれば置いてくれると思うが、なければおいだされるかもしれない。」と語る。「今の給料でやっていけるのは、同居しているからと答えているのに、追い出されたらどうするんですか。」と聞いた時、「何とかしておいてもらうしかない。」と答える。

A さんの少ない給料でも <十分な収入> を得ているのは、同居しているからであると A さん自身も語るし、客観的にもそうなのだが、いつ追い出されるやも知れない身であり、<A さんが語った将来に暮らしていける十分な収入> を確保出来そうでない状態に対し満足しており、将来に対する不安はないと答える。『A さんが A さんの弟が帰ってくる前に結婚し、家を出てもやっていける事』、『A さんの弟は、いつ結婚するか』、『公務員になれること』、『臨時職を続けること』、A さんはどれもほぼ確定している安定した未来を持っていないのに、なぜ現状に満足し、不安だと語らないのか。以下の語りをみてほしい。

質問：自分がフリーターになることとか考えたりします？

A 8：あはは・・・考え・・・るね・・・うん。(中略)最近なんか職につけない・・・たぶんフリーターになるだろうなっ  
ていうのは常々思ってるかな<sup>5</sup>、うん。(略)まあ最近思うようになってきたね・・・うん、仕事にいきよ  
ったら全然思わんのやけど・・・帰ってきて寝る前にふっと・・・

質問：今の状態を家族はどう考えていると思いますか？

A 9：多分フラフラしてないだけまし、ぐらいいしかな 略 。なんか私も一年で契約が切れるから、もう結婚して・・・  
なんていうんだろう。安定したいって言う気持ちがあるんかも。だから早く結婚したいのかも。・・・うん。

A 10：とりあえず電車とかでも迷いそうだし、(略)ちょこちょこ旅行とかで大阪へいったりしているんだけど、  
やっぱり自分は都会に住めないなって(略)実感したからね。(略)だからやっぱり自分は T から出れない

<sup>5</sup> カッコで囲っているのは、質問の言葉である。語りと区別する為に線と分けた。

<sup>6</sup> 線で引かれているのは、インタビュー回答者が答えた言葉で、特に注目してほしい所である。

なって、・・・そう思って公務員になっちゃったのかなあ・・・でもなんか最近公務員諦め・・・きたね。うん。(略)なんかものすごい競争率だから・・・自分の実力ではむりかなーって思い始めているんだけど・・・

質問：将来について何か不安なことがありますか？

A 11：(略)んー今のところはないかなーうん。今のところはないです。不安は・・・うん。

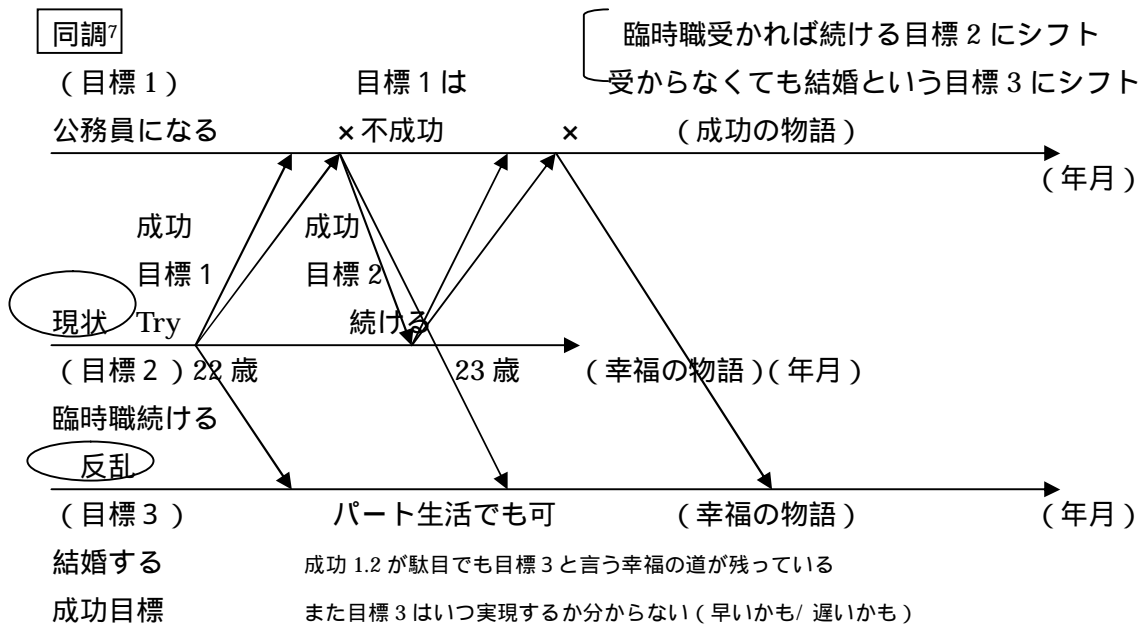
質問：現状に満足していますか？

A 12：してますー。うん。不安に思うことはないかな。うん。

[分析]

A8 から A12 は、ひと続きのインタビューであるが、A8 で「たぶんフリーターになるだろうなっていうのは常々思ってるかな。(略)帰ってきて寝る前にふっと」という漠然とした不安を持ってはいるが、現状に満足していると答える。将来自分がフリーターになり、弟が帰ってくることで追い出されるのではないかという漠然とした不安は持っているが、それに対して積極的な焦りを感じないのは、結婚という別の移行への幸福の物語がまだ破綻していないためだと思われる。それというのも、A さんの弟が帰ってくるのは、早くても A さんが 25 歳の時である。この 25 歳とは、母親が結婚した年に非常に近いと同時に、A さんが何歳までに結婚したいといった年齢と一致し、臨時職を続けられる年でもある。

3-5.A さんの幸福の物語の組み合わせ方



【図 1：A さんの成功の物語と幸福の物語の組み合わせ方】

A さんの成功の物語(目標 1)は、ほぼ受かるのは無理だと諦めているが、現状の臨時職という立場は(目標 1)に Try できる場所におり、成功すれば(目標 1)にゆける。

<sup>7</sup> 補論：同調と反乱というのは、マートンのアノミー論の言葉である。マートンのアノミーの緊張と適応の仕方は、付録 1 に記載してあるので参照。また、 が成功の物語で、 が幸福の物語である。



また、臨時職を続ける（目標２）とは成功の物語である公務員になる（目標１）と、結婚する（目標３）との両方に埋め込まれていると思われる。臨時職である限り、（目標１）をTryし続けることが出来る。Tryし続けることが出来るということで、幸福の物語に結び就いている。これは、臨時職を続ける（目標２）ことが達成されなければ、別の仕事について（目標１）をTryし続けるということで、幸福の意味が弱くなる。保険は絶対支払わなければいけないと考えるAさんは、別の仕事に移ると、現状の上へのTryは完全にたつ、もしくは幸福の物語の意味が弱くなると思われるので、その時は（目標１）に向かっていたが、（目標３）に向っていこうと思われ。それはそもそもAさんが公務員に求めていたのは、結婚後も働けるという安定のため（収入が安定）と答えるが、Aさんは実は安定ではなく「自由がきく」ということにウエイトを置いており、成功の物語（目標１）を諦めても、幸福になれるように、「私」という幸福の物語を作り上げている。

つまりAさんは成功の物語に失敗、もしくは諦めても、現状では（目標２）（目標３）どこに移行しても幸福になれるように、「私」という幸福の物語を作り上げており、幸福の物語が複数存在するのである。

### 3-6.Aさんの結論 - Aさんがなぜ幸福か -

Aさんがなぜ幸福かというのも、＜結婚しても働ける「安定」＞というのは、「結婚しても離婚しても、暮らしていけそう。」「男と女の給料かわらんし」と自立できる収入の事を述べるが、インタビューをしていくうちに、Aさんにとって＜安定した収入を得られることを「安定」＞だと考えているわけではなかった。Aさんが考える「安定」とは、家事や子育てをメインにし、正社員としてバリバリ働かなくても、生活できる暮らしを「安定」だと捉えていた。それは、「不景気だし、夫だけの収入では無理。」「男は働かな。」と考えているAさんにとって、夫が主に働いて、自分はそのサブとして働き、家事の方をメインにできることを目指している。Aさんが、家庭の事、子供ができた後の将来をどうするかということについて、明確に考えているように語っているのも、このためだと思われる。

以上のことから、「公務員にはなりたくないやけど。」「短期だからできる」という矛盾した答えに説明できるものである。公務員は、Aさんにとって結婚して子供を産んでも、割と「自由」に家庭や自分の事に時間が割ける「安定」があるし、結婚すれば、公務員のような＜安定した収入＞は得られないが、そもそも収入に安定を求めていたわけではなく、＜安定した自由＞、つまり仕事の休みを取れることに自由がきくことを求めていたのである。それは、公務員をしなくても、結婚してパートでもAさんの条件に合うように幸福の物語を作っている。そして『公務員を目指すこと』、『臨時職を続ける事』、『結婚する事』それぞれは実現するか分からない、確定しているものがないのにも関わらず、なぜAさんがそれでも不安は無く、現状に満足し幸福だと答えるかということ、成功の物語を下りても、幸福になるように複数の幸福の物語を同時に組み合わせる移行可能なものにできるように、Aさんが作り上げているからである。このようにAさんは、成功のみが幸福ではないという典

型的パターンである。

#### 4.【事例その2】Bさんの分析 Bさんはどうして成功の物語を降りないのかー

Bさんは現在Y会社のエレクトーン講師を目指している。そして現在はY会社の受付のアルバイトをしており、先生につきながらグレードという級の勉強をしている。ただBさんはY会社の受付の正社員になる気はまったくなく、将来Y会社のエレクトーン講師とY会社の看板を掲げて自宅で講師をすることを目指している。

##### 4-1.Bさんのライフヒストリー

[Bさんが県内の短大に進学した理由]

Bさんは、エレクトーン<sup>8</sup>を5歳の頃からしているが、その頃からエレクトーンに興味があったわけではなく、練習もしなかった。むしろ小学校の頃Bさんは、習い事ばかりで、エレクトーンより特に水泳に力をいれていた。しかし、小学校6年の時、エレクトーンの上手なグループにあたりその影響をうけ、初めてエレクトーンが面白いものだと感じた。そして、高校1年の頃、「もし音楽の方に進むんだったら、先生紹介するよ。その先生に見てもらい。」といわれ、実際に紹介して貰い本格的に教えてもらい出したのは、高校3年の夏の頃だった。高校2年の頃から、大学1年までは、前の先生と今の先生両方に教えて貰っていたが、前の先生は時間が合わなくなり、現在Bさんを教えているのは、今の先生だけである。進学を選んだのも、紹介が一番の要因である。今の先生はR大学を現在定年退職している。そして現在R大学では、Bさんが専攻していた、電子オルガンのコース自体がなくなってしまい、「もし自分が生まれるのが、2年遅かったら、今の先生もいなくなるし、コースも無くなっていた。<sup>9</sup>」、「家から通える範囲で、自分の行きたい進学先があって、現在勉強できるのは、本当に運がよかったとしかいいようがない。」と語り、今の先生との出会いは、Bさんの中で大きなウィークポイントになっている。

また、Bさんは「進学前はもっと簡単に音楽の職に就けると思っていたが、大学に上がってから本当に音楽でやっていけるのかな、と思った。」と語るが、それでもY会社の講師+自宅で講師と、Y会社の講師になること以外の職を考えておらず、「結婚は何歳までにしたいですか。」という質問に対しても、「結婚する予定ない。勉強の事だけ。Y会社にはいることしか。」と答える。「老後1人はさびしいから、一生独身はないけど、死ぬまでには結婚したい。」、「もし結婚しても、もっと音楽の勉強をしたいとその時思っていたら、夫に子供を待って貰う事になるし、もう音楽は趣味程度に教えるのでいいやと思っていたら、子育て優先するし。でもそれはその時になってみないと分からない。」と語る。それはBさんが、

---

<sup>8</sup> 現在Y会社で目指している楽器は、エレクトーンの講師である。進学先もエレクトーンを専攻としている。ただ、Y会社の講師をするのは、メイン楽器と、ピアノなどのほかの楽器もサブ楽器として弾ける事が必要。

<sup>9</sup> 前の先生は、今の先生の教え子であって、前の先生がY会社の講師になる為の指導をしていたのも今の先生である。

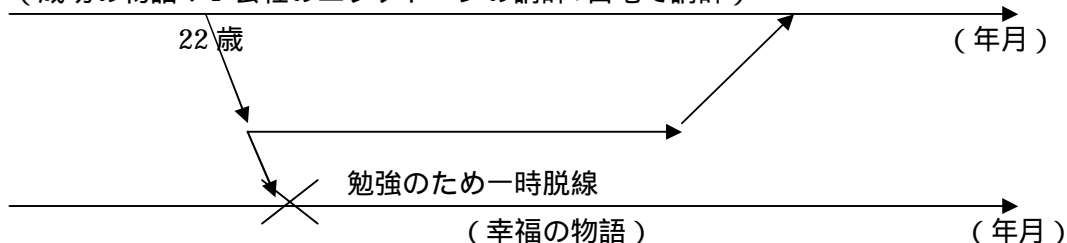
「1度に両方あれもこれもできない性格」と自分を捉えているからだ。

Bさんは現在、Y会社の事務のアルバイトをしながら、グレード試験<sup>10</sup>の勉強をしており、Y会社の講師+自宅で講師を目指している。ただし事務の正社員になる気はまったくない。そして、同居をする理由は、経済的な面もそうだが、1番の理由は自宅でないエレクトーンの練習が出来ないため、「家を出て1人暮らしをしてみたいが、楽器の関係で家をこれからも出ることはないと思う」と答える。

#### 4-2.Bさんの幸福の物語の不存在

(目標1)

(成功の物語：Y会社のエレクトーンの講師+自宅で講師)



【図2：Bさんの成功の物語、幸福の物語の不存在】

基本的にY会社に入る試験に何らかの資格を要するわけではないが、演奏グレード<sup>11</sup>の専攻楽器エレクトーン5級の試験に5回目で受かっており、後は指導グレード5級をとることで2次試験の一部免除項目になり、1発合格したいと考え、また同居して親の援助をもらえる若い内にグレードをできるだけとっておいた方が良くと考えており、Y会社の採用試験を受けず、グレードの勉強をしている。そして現在指導グレード5級を勉強しており、来年の春までには資格をとって、夏の採用試験を受けようと考えている。ただ年によっては採用試験を受けても記録名簿に名前が載るだけで、採用枠がない場合もある。そして採用試験を受けるかどうかは自分についている先生の指示に従わなければならない業界なので、いつ受けるかというのは変更される場合もある。そのため現段階では、サブ楽器としてピアノ5級もY会社に入るまでにとりたいし、エレクトーン4級も取るかもしれないとBさんは話すが、「それは先生の判断しだいで、とりあえず今は指導グレード5級がとれるまでは採用試験は受けるつもりはない。」と答える。そして、ピアノ5級は25歳までに、結婚するまでには、エレクトーン4級までにとりたいと考えている。それというのも基本的に入ってからも、ずっとグレードなどの勉強しなければいけない特殊な業界なので、入ってから終身雇用制度というものはなく、実力の世界で、若いうちの勉強できる時にグレ

<sup>10</sup> グレードとはY会社のみ有効な検定試験、級のことであり。詳しくは末尾に記載する。

<sup>11</sup> Y会社が行っているライセンスのグレード試験というものがあって、演奏グレード5級と指導グレード5級をとることで2次試験の免除項目になる。

ードをとったほうが良いと考えている。そして、「現状に満足していますか？」という質問に対して、「現状に満足していないから勉強しているんです。」と答える。Y 会社は入れる年が 26 歳までという制限があるので、26 までには入りたいが、若い方に入るほうが順応しやすいので、出来れば 24 か 25 には入りたいと考えている。現段階では、Y 会社の講師になることしか考えていない。そして Y 会社の講師になっても、初任給は 5 ～ 6 万と今の受付のアルバイトと同じくらいしかもらえないので、Y 会社の講師をしながら、自宅で講師をするというのが一般的で、自分もそうすると語る。

つまり、B さんの場合、成功の物語をひたすら変えることなく歩んでおり、「諦める」という幸福の物語へ全く移行しようとせず、幸福の物語が存在しない。

#### 4-3.B さんの幸福の物語の不存在の理由

A さんの場合は図 1 のように、成功の物語（公務員になる）を諦めても、次の幸福の物語に移行できるよう、成功の物語と幸福の物語が同時並行していた。一方 B さんの場合は 1 つの成功の物語（Y 会社の講師 + 自宅での講師）だけしか目指しておらず、諦めて次の幸福の物語へ行く道がない。なぜ、B さんは成功の物語をずっと歩み続けるかということ、それは、B さんが目指す Y 会社講師の試験とは別にグレード制という試験があって、たとえ講師試験を受けなくても、グレードの級が上がれば最終目標である就職試験の免除項目になるので、成功に近づいていることになる。そのため就職試験が受けられる最終年齢の 26 歳を超えるまでは、挫折することがなく、成功の物語を諦めなくてすみ、わざわざ幸福の物語を作り上げなくてもよくなっている。そして 26 歳を超えてはじめて、成功の物語を歩むことができなくなってしまい、現在演奏グレード 5 級をとっているので、Y 会社の看板をだして、自宅で講師をするという幸福の物語へと移行することになる。

よって現状では Y 会社のシステム講師をするという成功の物語以外考えなくてもよくなっており、「諦める」という幸福の物語を全く作らなくてもよくなっている。

#### 4-4.B さんが成功の物語しか考えてなくていい他の要因

B さんが現在成功の物語以外考えなくていいのは、グレード制というものがあり、たとえ就職試験に失敗しても、グレードの級を上げることで成功へと近づいているからであった。だが B さんが成功の物語以外考えていないのは、グレード制によるものだけではないと思われる。それは「Y 会社に入れるんかなっていう不安はあるんだけど。けどそれ以外は考えていない。」と語る部分で、B さんは、「1 つのことをこうだと考えると、それしか考えられない性格」、「もっと自分でも他の人みたいに、ぱっと目標変更できたらいいのって思う。」と B さんの性格として語る。成功の物語しか目指さないのは個人の性格という風にしか分析できないのだろうか。そうではないように思われる。

またエレクトーンの講師を、1955 年度の SSM 職業分類および職業威信スコアで見るとおそらく、「他に分類されない専門的・技術的職業従事者、職業威信スコア 50.5」（直井・

盛山 1990:188)に該当されると思われる。もちろん他に分類されない専門的・技術的職業従事者なので他の威信スコアも入るし、Y 会社のエレクトーンの講師と非常に限定的なので実際にはもう少し下がると思われるが、それほど威信スコアは低いものではない。給料が低くても、威信スコアが高いから、成功の物語を目指し続けても不思議ではないという議論もできる。しかし、職業威信スコアをみると公務員という項目がないのではっきり何%とはいえないが、公務員の平均的な職業威信スコアは 50.5 とほぼ同じか、むしろ高いぐらいで公務員は位置づけられているので、威信スコアの高さが、成功の物語を目指し続けることとは直接結びつかない。

B さんの性格ではなく、また威信スコアが高い職だからではなく、B さんが成功の物語しか考えていないのは、そこには B さんが何らかの工夫やテクニックを用いているのではないだろうか。もう少し、B さんの事例を詳細に見るために、B さんが捉えている比較準拠集団を語りから見つけていく。

## 5.B さんの分析 - 準拠集団を用いて -

### 5-1. 準拠集団論の欠点

船津衛によれば、「準拠集団理論は、こんにち全体像が明らかにされ、その特質、その問題が明確化されて、その洋々たる前途が約束されているのである」(船津 1980:101)という。ではなぜ、洋々たる前途が約束されているはずである準拠集団論であるにもかかわらず、近年なされる研究が減少しているのだろうか。渡辺は、以下のように述べる。

準拠集団概念の第一の論点は、「具体的集団」、「集団体や社会的カテゴリー」、そして、「想像上のもの」のうち、どこまでをその射程に入れるかという問題である。(略)行為者に規範を付与する規範準拠集団よりも、行為者が主体的な状況判断をする為の素材となる比較準拠集団の方に準拠集団の機能の今日的意義があるのだとすれば、客観的評価機能を持たない想像上の集団を準拠集団概念の射程内に入れることは、不適當であるといえよう。(渡辺 1983:2-3)

また概念を最も広義にとられ、「想像上のもの」の準拠集団まで含めてしまう事について以下のようにも渡辺は述べている。

想像上の準拠集団は行為者に規範を示すことはできても、その集団と自己を比較することによって不快・不満を感じたり、或いは自己評価をするために用いられる比較準拠集団にはなりえないという問題がある。(略)それゆえ、必ずしも現存する社会学的な意味での集団に限る必要はないが、準拠集団概念を具体的集団に対して用いる事が、真の理論的発展を可能にするのではないかと思われる。(渡辺 1983:3-5)

このように、渡辺は想像上の準拠集団を含めるべきではないと述べている。

## 5-2.本稿での準拠集団の定義

渡辺によると、以下のように述べられている。

準拠集団理論において、最初に準拠集団の機能類型に関する考察を行なったのは、ケリーである。ケリーは、準拠集団を2つに分け、個人がその集団に受け入れられたい、あるいは受容を維持したいと動機づけられるために準拠する集団を「規範集団 (normative group)」、自己や他者を評価する際の準拠点となる集団を「比較集団 (comparative group)」と呼んだ。(渡辺 1989:129-130)

そして長谷川によると、「準拠集団の個人に対する機能としては、大別して、自己の地位等を評価する際の比較の準拠集団となるという比較機能と、個人が準拠集団への同一化を通してその集団の規範を内面化して態度や価値観を形成するという規範機能がある」(長谷川 1984:197)と述べられている。また渡辺によると、「客観的評価機能を持たない想像上の集団を準拠集団概念の射程内に入れることは、不適當であるといえよう。」(渡辺 1983:2-3)という。

この定義を踏まえて、Bさんの準拠集団を考えるのに「想像上のもの」を含めず、語りやインタビューから分かった実際のデータから、Bさんが実際に比較している比較準拠集団を見ていきたい。

## 5-3.なぜAさんでは準拠集団で説明しないのか？

なぜAさんでは準拠集団で説明しないのかということ、Aさんの事例は、準拠集団論をもってなくても、成功だけが幸福ではないという、幸福の物語で説明する事ができる。しかし、Bさんの事例では、そもそも成功の物語を「諦め」なくてもよくなっている構造で、幸福の物語を現時点では作り上げなくてもよくなっており、26歳を超えてはじめて「諦める」という幸福の物語(自宅で講師だけ)という道ができる。つまり成功の物語自体がグレード制という成功の物語(Y会社の講師試験)を受けなくても、グレードを上げることで一見成功している形になる、「諦めなくていい」という幸福(「諦める」という幸福の物語の意味とは違う)なものである。

ではなぜ、Bさんは比較準拠集団でみるかということ、Bさんがインタビューの中で、何度も「みんな」という語りをすることに注目したからだ。これは、誰か具体的な特定の人と自分を比較していることを示す。つまり、成功の物語のため、すぐに就職試験を受けず、グレードの勉強をしている現在を肯定的に、個人Bさんの「性格」としてではなく、比較準拠集団で説明できるものとしてBさんが捉えていることを意味する。

Bさんが成功の物語しか考えていないのは、Bさんがどんな工夫やテクニックを用いてい

るのか、もう少し、Bさんの事例を詳細に分析するのに、新たに比較準拠集団をもちいて考えていきたい。

#### 5-4. 「みんな」と語る道具立て-「みんな」とは誰か-

自分と比較している準拠集団・・・Y会社の別の講師達（Y会社仲間）

・・・短大の子（先輩、同級生共に）

準拠個人・・・・・・・・・・・・・・・・今の先生

ここでいわれている「みんな」というのは、誰のことを指すのかをBさんが語ったデータを基に見ていく<sup>12</sup>。まず、「講師になってもみんな勉強しようんやけどな。」「みんな両方（Y会社と自宅）しよう。殆ど人はそうした。そうしないと、殆ど収入がないから、自分もそうなると思う。」「他の先生がみんな忠告してくれるやけどな、年とったらできんようになるでよって、」という語りからも、ここではBさんは明らかにY会社の講師達（今の先生は除く）を自分の準拠集団として捉えている。また、準拠していた時は短大の先輩や同期でも、現在ではY会社の講師になった人もいるので少しかぶる場合もあるが、以下の語りから短大の準拠集団でも自分を比較している。

質問：就職活動をしましたか？

B4：してないっす。だって卒論の準備で大変だったもん。そんなん理由にならん。でも周りがしてなくて、勉強している子が多かった<sup>13</sup>。(略)グレードだったり、ちょっと家で教えながら、勉強したり、ほんでその就職、その音楽関係の就職しても、まだずっと勉強してる

質問：音楽の講師になっても？

B5：うん。ってというか講師になってもみんな勉強しようんやけどな。ずっと勉強しよう。

(解釈)

B4をみるとBさんは、卒論が大変だったというのがおそらく就職活動をしなかった本当の理由だが、就職活動をしなかったことは周りの学生もしていなくて、勉強している子が多かったと語る。そして、大学生の準拠集団だが、明らかにその周りとは音楽関係の仕事を目指している人たちである。また、その後の「グレード<sup>14</sup>試験や家で教えながら勉強していたり」という発言から、Y会社を目指している人のみをさすが、自分が就職活動をしなかった立場を周りに説明可能なものとして語っている。

[分析]

<sup>12</sup> なお「みんな」とBさんが語るインタビューの中身は、付録2を参照。

<sup>13</sup> 短大の比較準拠集団。ここで重要なのは、就職活動をしなかったことが、周りに対して説明可能なものとして語られていることである。つまり、周り（短大の同期）と比較して自分の行動は、説明できるものだとはBさんは考えているという事である。

<sup>14</sup> グレード試験はY会社がしているもので、Y会社にしか効力が無い。

Bさんが自分と比較している準拠集団は、自分が受け持ってもらっている以外の他の先生(現在Y会社で講師をしている人)、とまだ講師になっておらず、自分と同じように音楽関係の就職を目指している短大卒の人をさしている。そしてそれは、Bさんが現在勉強中として、講師試験を受けず、グレードの勉強を受けていることは、語りの中で周り(Y会社の別の先生)の忠告を聞いたこと、周りの中で置いていかれないようにグレードをとる事が就職を必ずしもしなくても、Bさんの周りにむしろ高く評価させるものとして自分を位置付けている。それは、「不安に感じていることはありますか?」という質問に対して、「どこまで勉強するん?みたいな。多分一生するんだろうけど。スキルアップの期間です、ってそういう期間がないけんな、好きやけんでできる仕事やなって思う。音楽。」という発言にも現れている。グレード試験を取っている人は、「めっちゃめっちゃ短期間に取っている人もいれば、長い時間をかけて取っている人もいる」と、別の場所で発言しているが、「もうほとんどオタクみたいな人ばかり」の業界である自分の周りに置いていかれないように、スキルアップ期間というものがないので、勉強期間として、わざと試験を受けない事が、自分の比較する準拠集団にとっては、一番よい選択であるように自分を位置付けており、周りに評価されるよう行動している。

Bさんの準拠個人としては、今の先生が挙げられる。試験を受けるにあたって、指導先生の指導に従わなければいけない業界なので、準拠しているのは明らかである。また、「後2年遅れて生まれていたら、今の先生が定年でおらんようになってるから、ホント運が良かったとしかいいようがない。」と、今の先生に出会えたことがBさんにとってウィークポイントになっている。

このように、Bさんが「みんな」と捉え、自分と比較している準拠集団はY会社別の講師たちと、短大の同年代と先輩である。そして準拠個人としては、今の先生であった。

#### 5.5.比較準拠集団とアクションの差異

井上は、「人生を物語る時、聞き手のなかに『道づれ』(CONVOYS)のような他者たちだけでなく、語り手自身も含めて考える必要が生じる」(井上 1996:13)と指摘し、物語は自分を納得させる意味でも重要であり、このことは簡単に納得しがたいような状態に置かれた時とりわけはっきりするという。また浅野によると、「物語の信憑性は物語それ自体に内在する性質なのではなく、むしろコミュニケーション過程の中から生み出されるものなのだ。」(浅野 1994:6)と指摘している。同じように、Bさんは自分の準拠集団を勝手に自分で決められるわけではなく、比較準拠集団メンバーとのコミュニケーション過程を通して決められている。そしてそれは自分の物語だが、準拠集団内のものではしか出来ないという制約を受ける。例えば、今の先生に「そろそろY会社の講師の試験受けるの?」ときかれた時、「でも指導グレードとってないし。とらなくていいの?」とBさんがいったら、「指導頑張ればいいで!!さっさととり!!って怒られた。」と語る。BさんのY会社講師試験を受けないのは、実際は自分の意見に拘束されたことになるが、このアクションをとるこ



とにより、準拠個人に自分の意見が認められたことになり、準拠個人はより自分を支えてくれる。

このように B さんは、「みんな」と捉えた比較準拠集団が存在し、それが B さんの評価を高くするものであり、B さんを支えるものであることが分かった。B さんの〈今〉を評価できるものとして、比較準拠集団はある。しかし、もっと詳細に聞いていくうちに、たしかに B さんが「みんな」と捉えた比較準拠集団は短大の同年代と先輩、Y 会社の別の講師、準拠個人は今の先生だったが、B さんが比較準拠集団に対して働きかけをする相手は、実はすべての比較準拠集団に取られていない。以下の語りを見てほしい。なおこれは、4 回目のインタビューで詳しく聞いたデータである。

質問：今の勉強しようという形になったきっかけは？

B31：入るんだったら（Y 会社）ピアノ 5 級、エレクトーン 5 級、指導グレード 5 級ととっかないと後が辛いよって周りの先生にいわれた。みんな持っているから

質問：具体的に周りの先生とは誰のことですか。

B32：みんな！前の先生とか今の先生とかももろの先生に言われた。のちのち苦労するよって。まあどっちみちせなあかんしな。勉強してたら、準備になるし<sup>15</sup>

質問：Y 会社へ入るのに相談は誰にしましたか。

B33：前の先生<sup>16</sup>とか、Y 会社でアルバイトしてからは Y 会社で講師している人とか。後、短大の時先輩からとか。グレード試験とかあるって

質問：お友達は？

B34：話したことない。周りもそんな話せんかったし。

質問：就職どこにしよかとか話さなかったんですか。

B35：せんな。ライバルだし。同年代の子はおらん。何人かの先輩には相談したけど。Y 会社の講師試験ってどんな事をするのか、グレード試験もっていい方がよいよとか。つつうか友達には絶対きかん。

質問：どうしてですか。

B36：先輩には聞くけど、友達には何にになりたいかばれるから。

質問：ばれたら駄目なんですか。

B37：んとな。田舎は就職先少ないんよ、音楽は。そうなる一つの企業に集中してしまう。もし私が K にいきたいけん K 会社の試験受けに行くって公言するとするで。そしたら、自分と同じレベルの子も受けに行こうかなってことになる。多分みんなそれがあるから同年代の人に話すのを避けている。周りも同期にはどこそこへ行きたいとさえ言わない。暗黙の了解みたいなもんなんよ。

質問：今の先生は相談とかしてますか。

B38：全くしてない。というか、今の先生怖いけん。中途半端にしか決めてなくて相談したら怒られる。Y 会

---

<sup>15</sup> 入る時は特に何かの資格を持っていなければいけないというのはない。試験に受ければ合格する。しかし、後で結局はとることになるし（級を持っていないと仕事がなくなる、級は実力を測る 1 つ）自分の演奏の勉強にもなるし、試験の免除項目にもなるので、今勉強するので行なっている。

社の試験受けるってちゃんと決めてからの相談ならちゃんと載ってくれると思うけど。

- 表 2 : B が誰を相手に聞いたか -

聞く相手 Bさんが聞いた事	今の先生	Y会社の講師	短大先輩	短大同年代
1. 自分が何を指すか	×			×
2. グレード試験について (Y会社について)				×ただし比較はする
3. Y会社に入れるのかなという不安	×		×	×
4. 何処の会社を受けるか				×
5. 指導グレード5級とらなくていいのか				
6. 26歳までにしといた方がいいこと				

聞く × 聞かない 聞いていないがわかっている

注：グレード試験とは、Y会社のみに役に立つ制度なのでそれについて聞いたら、何処へ行きたいかは分かる。

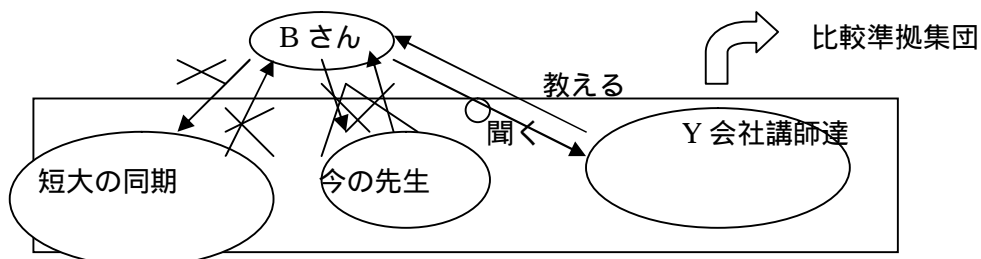
- 表 3 : Bさんが自分と比較している相手 -

比較の対象	今の先生	Y会社の講師	短大先輩	短大同年代
Bさんがいう「みんな」				
1. 就職しても「みんな」勉強しよう				
2. 入って一番下なのが嫌				
3. 入る前にグレード取る人が多い				
4. 地元で就職できれば、周りの先生に助けて貰える				
5. 指導グレード5級とらなくていいのか				
6. 26歳までにしといた方がいいこと				

比較している

表3は、Bさんが「みんな」と表現し、自分と比較した比較準拠集団（個人）である。比較準拠集団と自分とを比較しているのは、表3を参照。表3の は自分と比較した相手である。そして、Bさんが比較準拠集団の中でも特定の相手に対してのみ選んでアクションしているのは表2を参照。表2の はBさんが実際にアクションした相手を意味する。そして二つを比較して参照。分析は以下に続く。

<sup>16</sup> ただし相談したのは、前の先生の指導がかわり、担当の先生では無くなった時である。



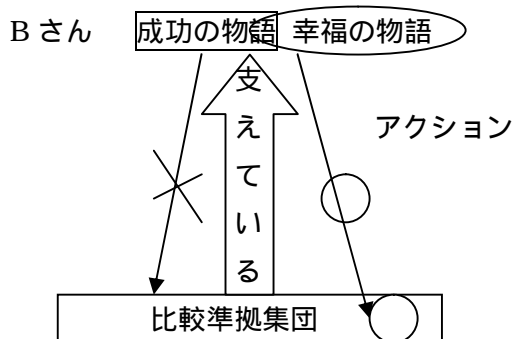
【図3：Bさんの不安に対する比較する準拠集団とアクションする相手の差異】

[分析]

Bさんが「みんな」と捉え、自分との比較は、短大の同年代、先輩、今の先生、Y会社の講師これら全ての比較準拠集団（個人）になされている。しかし、Bさんが比較準拠集団に対して不安について相談するのは、Y会社講師だけである。同じように音楽関係を目指している同期の子には、自分と比較をしてもアクションすることが全くなく、就職をどこに行きたいかさえ聞かない。Bさんが働きかけるのは就職が決まってY会社の講師となっていたり、自宅でしかしないと職業を決めた子だけである。さらに聞いた先輩も県外の人で、先輩は自分の出身県へ戻っており、Bさんの地元の先輩には聞いていないようである。そして今の先生は、BさんがY会社のシステム講師になりたいと知ってくれているが、システム講師をするならきちんと勉強しなければいけないと考えている人とBさんが捉えているので、今は就職試験をどうするか、グレード試験はどこまでとるのかという話は今の先生とはまったく話をしていない。

Bさんがアクションを取る相手、聞く相手を確実に選んで、自分の比較準拠集団がより強固に自分を支えるようにBさんは選択して、比較準拠集団にアプローチしている。つまり、Bさんは、ただ比較準拠集団に支えられているだけでなく、自分も比較準拠集団がより強固に自分を支えてくれるようにしているのだ。

5-6. Bさんの結論 - Bさんによる比較準拠集団の操作 -



【図4：Bさんを支える構造】

このように、今の自分を準拠個人や準拠集団が支えてくれている。しかし、ただ準拠集団

に支えられているだけでなく、自分に対する準拠個人や準拠集団の影響がより強固になるように働きかけている。それは、グレード試験やシステム講師などの26才までに何をしといた方がいいのかは、比較準拠集団の中のY会社講師仲間と準拠個人両方に丁寧に聞いていながらもかわらず、26才より後の事(試験に落ちたときのこと、Bさんに対する不安)はきかない。そしてY会社の試験は、実力があれば何のグレードを持ってなくても受かるが、Bさんは今試験を受ける気がない。「もし万一受かってしまったら、仕事しながらグレードをとることが自分には出来ない。」といい、「後が困る。」と語る。指導グレードを上げることで、周りの準拠集団の意見を聞き入れ、周りに自分の状態を納得させていると同時に、「まあ人それぞれと思うけど、自分はな。」というように、自分でそれを選択しているように語る。つまり、比較準拠集団をBさん本来の人生選択(試験を受けずグレードの勉強すること)を正当化するよう、「Y会社講師仲間」とのコミュニケーションによる比較準拠集団を使って強化している。そして、比較準拠集団が成功の物語を一方的に支えるのではなく、Bさん自身も比較準拠集団内でアクションを取る相手、取らない相手を選択することで、より強固に比較準拠集団が自分を支えるように工夫して自分も働きかけをしている。それは自分を揺るがす集団には、自分と比較をしても、アクションはしないという区別をする。

このようにBさんはただ比較準拠集団があり、それがBさんを一方的に支えているのではなく、Bさん自身もその比較準拠集団が自分をより支えてくれるように、比較する比較準拠集団とアクションする相手を区別するという工夫をしていた。これらのことから、準拠集団は単なる受身でなく、相互行為的に準拠集団によびかけ、準拠集団(個人)に働きかけているといえる。

#### 5-7.Bさんは比較準拠集団と同一化しているのか

このことを見るとBさんは、比較準拠集団から、自己の地位等を評価する際の比較機能として、Y会社の講師の意見に従い、同時にBさんが準拠集団に従い、同じ道への同一化を通して、その集団の規範を内面化して態度や価値観を形成しているといえるのではないかと、思われるかもしれない。しかしそうではない。Bさんは「みんな」という言葉を使い、比較機能として使って説明するが、「BさんがY会社の講師になったら」という話では、「みんないろいろよ。音楽ジャズ開いている人いるし、家で開いているだけの人といるし、システム講師している人いるし、してない人いるし、」と語る。そして「まあ自分は親に頼れるうちに勉強しといてY会社の講師システム講師+自宅したいって思ってるだけ。結婚も運やけんせんかもしれんし、するかもしれん。でも少なくとも楽したいから結婚したいわけではない。」と語られ、比較準拠集団の中でも「いろいろある」と表現する中から、Bさん個人が適切な道を選び現状に至っている。つまり、少なくとも準拠集団に同一化し、規範を内面化して、態度や価値観を形成しているとはいえない。Bさんは、態度や価値観は個人に依存し、準拠集団は自分の生き方の比較にはなるが、同一化するに至ってはいない。

「いろいろある」中で、Bさんが準拠集団をうまく選び取ってBさん本来の人生選択を強化しており、Bさんが選択しているのだ。

#### 5-8.なぜBさんは成功の物語のみを目指し続けられるか

以上のことを踏まえると、Bさんが成功の物語のみを歩み続けられるのはBさんの性格でなく、アクションする相手を区別するという工夫であった。しかし、Bさんの実際の語りでは「Y会社の講師になれるのかなという不安・・・もあるけど、どうしようもないよといわれる」と、グレードの事や26才までにやっていた方がいいことは、Bさんは詳細にY会社講師仲間に聞くが、26才以降のおちた後のことは「どうしようもないよ」で終わらしてしまい、Bさんはそれ以上自分の比較準拠集団に対して聞きだそうと働きかけをしない。そして、「でも、B会社の講師しか考えてないんですね？」という質問に対して、Bさんは「うん。こまったな。一つの方向見たら、一つしか見えなくなるからな、私」と、自分の性格として、説明している。性格の話はそれ以上インタビューに関して追求することができないものにしてている。つまり、Bさんは性格として語るが、実際には自分と比較する比較準拠集団とアクションをする相手を区別して選択するという工夫を行なっており、Bさん自身が意識している、していないによらずその比較準拠集団との比較とアクションの相手の差異は、Bさんをより支える構造に結果なっている。これは船津のいう「個人の主体性は彼らの主観的意図や意志からでなく、何よりも構造的現実から引き出されるのであり、かれらの一定集団への関連づけは、自分がそうしたいからするというのではなく、その置かれた構造的な位置から生み出される」(船津 1971:34)といえるのではないか。つまり、Bさんが成功の物語のみを目指しつづけられるのも主観的な性格というわけではなく、成功の物語を歩みつづけられるグレード制、そして自分を支えるように準拠集団をもって自分を肯定的に説明出来るものとして位置付けている。そして、ただ準拠集団を持ってきてだけでなく、準拠集団を操作するという工夫をBさん自身が行なうことで、よりその比較準拠集団は自身を支え、そのBさんを支える構造が、成功の物語を歩みつづけることを支えている。

#### 6. 考察

Aさんの場合は、成功のみが幸福ではなくなっており、成功の物語を「諦める」幸福の物語の第2、第3の道に移動することを不幸に感じない。

またBさんの場合、26歳までは「諦める」という第2、第3の幸福の物語を作り上げなくてもよくなっており、Bさんは、現在は「私」という幸福の物語が支える必要がなく、成功の物語を歩んでいるといえる。しかし、Bさんは、「みんな」という道具立てを使い、自分と比較する準拠集団の中では高く評価を得られるように行動している。そして自分の比較準拠集団とアクションの相手とを変えろという奇妙な事をするのは、工夫して相手を選ばなければいけないという、無理を必要とする構造があるということである。これは、比較準拠集団がより自分を支えるように強固にしていると同時に、逆に考えるとBさんにと

って少なくとも、ただ比較準拠集団に支えられるだけではだめで、比較準拠集団をうまく操作する必要がある、操作して自分の比較準拠集団がより強固に支えてくれるようにしなければ、うまく自分の成功の物語を支えてくれないものと捉えているといえる。だとすれば、操作して強化しなければならぬくらい、「みんな」という語りで説明するが、Bさんが目指している成功の物語は、本当は「みんな」が目指していない、実は社会的妥当性が弱い成功の物語であるといえるのではないだろうか。つまり比較する準拠集団とアクションする人を選択し、区別するという構造は、無理をしなければ、今の成功の物語を目指し続けられないという危険性を孕んでいることを意味する。とするならば、これはただの順風満帆な成功の物語ではなく、操作を必要とする脆弱な成功の物語をBさんは歩んでいることになるのではないか。

つまり、Aさんは成功の物語から幸福の物語への移行という形で、Bさんは脆弱な成功の物語を歩むという形で自分自身を合理化している。このように、AさんやBさんは工夫して自身を位置付けることにより、現状を肯定的に捉えているのである。

以上のように経済的な側面以外をみていったところ、当事者は現状を肯定的に評価できるように自分を合理化していた。そして、このような合理化のメカニズムは、多くのパラサイト・シングルの人たちにおいてもみられるのではないだろうか。

【付録1】表4 アノミー論

項目 適応類型	文化的目標	制度的規範
1.同調(conformity)	+	+
2.革新(innovation)	+	-
3.儀礼主義(ritualism)	-	+
4.戦線離脱(retreatism)	-	-
5.反乱(rebellion)	±	±

アノミーの緊張と適応類型(+の記号は「支持」を、-の記号は「拒否」、±は「代替」をそれぞれ表している)

大村によるとマートンのアノミーの緊張と適応類型について、以下のように述べられている。

「目標の平等配分と手段の不平等配分」、この(アノミーの)緊張化におかれた、とくに下層階級の人々でも、も

ちろん多くのものは目標と規範の両面にわたって、なおも「同調」しようとするであろう。制度的に許される範囲の手段によって、アメリカ文化が称揚する金銭的成功を目指して、懸命に努力する人々である。だが競争が厳しければ厳しいほど、目標の強調はルール軽視の風潮を生み出す。許されざる手段をとっても、とにかく富を得たものが勝ちということになり、これが(+)(-)の記号で示される「革新」である。反対に、成功を断念して、ひたすら規範を墨守しているのが「儀礼主義」。目標の面はもちろん、規範の面も含めて、そもそも競争場から降りてしまっているような適応のしかたが、「戦線離脱」というわけである。ちなみに、最後の「反乱」というのはこうである。文化的目標(富の追求)をただ消極的に拒否するだけではなく、より積極的に全く違った中身の目標(例えば愛の共同体を目指す)を設定し、当然、競争を前提とした今の規範とは別の規範をも同時に要求する。こういったいわば文化革命を求めるような適応の仕方を、マートンはあえて(±)の記号で示し「反乱」と呼んだ。(大村 1993:111-112)

このマートンのいう欲望をコントロールしながら、目標を諦めて逸脱して適応していく仕方が、成功の物語を降り目標を諦めていくという構造である。そうして、成功の物語を降りてもすぐ不幸というわけではなく、諦めて目標を修正できる、別の目標にする、幸福の物語に移行することが出来れば、それはその人にとって不幸ではない。成功の物語を降りる時、この幸福の物語によって、諦めるという構造をできるとおもわれる。

## 【付録2】

### [Bさんが「みんな」と答えるインタビューデータ]・・・10/28日のインタビュー

質問：Y会社のバイトを選んだきっかけはなんですか？

B1：きっかけ・・・新聞に載ってたから？(略)受付やらんって、っていったけど遠いけん嫌って断って、Iで求人広告ってだしとったけん、Iじゃ。行きたいって、そんなすごい情けない人間なんやけど。(省略)

質問：入る(進学)段階で、もう音楽関係の仕事をしよと決めていたんですか？

B3：大学はいるときは思ってたけど入ってから分からなくなった。自分はこんなんじゃ教えられるんかなくて。自分はほなけん甘く考えていたんだらうな。(略)何も考えてなかった。とりあえずその時その時ある事をこなしていくことしか。

質問：就職活動をしましたか？

B4：してないっす。だって卒論の準備で大変だったもん(略)でも周りがしてなくて、勉強している子が多かった。グレードだったり、ちょっと家で教えながら勉強したり、ほんで、その音楽関係の就職しても、まだずっと勉強してる

質問：音楽の講師になっても？

B5：うん。っていうか講師になってもみんな勉強しようんやけどな。ずっと勉強しよう。音楽や一見綺麗なように見えるけど、どろどろ(略)んー例えば講師になっても、その生徒を入賞させるとかも、ステイタスになってくる。(略)入賞させながら、こうグレードをとっていったまあ人によって違うけどな、講師しながら、フリーで演奏とかして、こんなジャズの人みたいに、あちこち演奏してお金とんよう人いるで。そういう人もいたり、まあひとそれぞれかな。

質問：Y会社に就職するか、自宅でするかしか考えてないんですね？

B6：K会社とか？考えてないです。

質問：それはどうしてですか？

B7：それ以外考えた事ないです。

質問：それはなんですか？

B 8:なんで？こね？っていうのは冗談やけど、それが自分にとって一番やりやすいと思う。からかなー。ずっとY会社のシステムの中で育ってきてるから、・・・やり方についていきやすいっていうのもあるのかな？(略)そんな風な考えかたなんやけど、入ってみたらそうか分からんけどな。(略)教えて貰った事を教えたらいいからっていうんではないけど。やり方になじみがあるから、かなあ？うん。なんか違うんやけど、そういうことにしといて。

質問：今の勉強できる期間に、キャリアアップしよう？

B 9:キャリアアップっていったら、かっこいいけどな。ただ単に、親に頼れる時にばばっとできる時にやっこって、いうんが、一緒か。ほんでな他の先生が**みんな**忠告してくれるやけどな、年とったらできんようになるでよって、指うごかんようになるしな、頭もうごかんようになるしな、やる気もなくなるしな、

質問：Y会社に就職するか、自宅で教えたいんですね？それは実現すると思います？

B 1 0:実現させな困る。今の時点でせな困るって、

質問：どう困りますか？

B 1 1:自分的に困る。実現できんようでは困る。(略)いままでほんだけ、大学行ってまで勉強した意味がなくなるのが、こわいかな。もったいないっていうのもあるんかもしれん。そういう理由で困る。

質問：Y会社に就職する、もしくは自宅でするっていうのについて親はどのように考えています？

B 1 2:自宅でするんだったら、やったらーみたい。もうここ(最近建てた別宅)でやってらーっていう。エレクトーンもってくるで？って協力的かな 略。家でなんてせんといてなんていわんし、めぐまれとうっていや恵まれてる。

質問：終身雇用制度が崩壊するかもしれないといわれていますが、そのことについて何か不安に感じることは 略？

B 1 3:終身雇用？でも私の就職先には関係ない。(略)やっぱ実力だから。なんかな、わからんけどな、やっぱY会社でシステム教えるんはもういいわって、自宅で教える人もいるしな。終身雇用っていうのではないと思うけど。

質問：じゃあY会社の人は大体何歳ぐらいまで働いているんですか？

B 1 4:講師？めちゃくちゃばらばら。だって私の先生な、今年64になるんやけど、そんな人もいれば、もう22で入って、24でやめる人とかもいるかもしれんし、あんまり分からん。でも昔は結婚するまで、とりあえずY会社で働いて、結婚したらやめるって人が多かったんやけど、今はやっぱ不景気やけん、結婚しても続けるって人が多いけん、若い人が入っていきにくい、就職しにくくなっているっていうのは、あるみたいやな。

質問：終身雇用でないっていうのに不安はないんですね。

B 1 5:不安。・・・まあ教えようと思ったら、自宅で教えられるしな。

質問：(略)では何か不安に感じていることはありますか。

B 1 6:(略)貯金してないという事が不安。あと老後の為に貯蓄できるかってこと。(略)後なんだろ。どこまで勉強するん？みたい。多分一生するんだらうけど。**スキルアップの期間です、ってそういう期間がないけん**、好きやけんできる仕事やなって思う。音楽。もうほとんどオタクみたいな人ばかりですよ。オタクっていうか、音楽に関する事には異常に執着しているっていうか。まあ私もやけど。(略)とりあえずY会社の講師を目指しているけど本当にそれになれるんかなって、いう不安・・・もあるけど、そんなんな、どんな情けないんよな。なれるかなって考えよったら、「**どうしようもないよ**」っていわれる。

質問：でもY会社の講師しかかंगाえてないんですね？

B 1 7:うん。こまったな。一つの方向見たら、一つしかみえなくなるからな、**私**。



B18：会社には入れる年齢きまっとんよ 26 歳まで。ほんでな若い年ではいっと方があの順応、あの溶け込みやすいいで。だから、できれば 24 とか 25 とか。できれば早く入りたいと思っているんやけどな、ほりゃ。受かればの話やけど。

質問：じゃあ Y 会社の方でどちらかという働きたいとおもってるんですか？自宅でするより。

B19：あのな、私が教えて貰いよった先生(前の先生)のすすめっていうか、Y 会社にはいいなよーっていうか、あのシステム講師っていうのがあってな、それに入り、それ受けなよっていう。システム講師っていうのが、あの指導グレードのいる。(略)多分先生は自分がおる間だったら、自分も手助けしてあげれるし、っていうのもあると思う。

質問：前の先生が Y 会社はいいなよっていったんですか？

B20：はいいなよ、はいらんのって、いつも会うたびにいわれる、だからそう思いよんかもしれんけど。Y 会社にはいろいろとおもっとなかもしれんけど。給料のこととか、その待遇はそんなにいい方ではないんだけど、って先生がいよった。ではないんだけど、いろいろ勉強になる事が多いって。やっぱ個人だけ、一人だけの子しか教えへん、・・んーとシステム講師っていうんはな、グループの子を教えられるっていう利点があるんよな、グループの子を教えられるっていうんは先生にとっても、しんだいけどいろいろ利点がある部分もある・・みたいなんよ。ほなけん、ようけ人がおったら、この子はこういう性格で、この子がおるけん他の子に影響して(略)なりたとうっていうか、なんていうんだらう。まあ、グループを持っていたら、勉強になることが多いけん、した方がいいよって、っていわれたから。

質問：今の仕事を一生続ける気はありますか。続ける気がある、ない理由は どうしてですか？

B21：ない。というより無理。外見的に(略)多分私は Y 会社に(生徒として)通って身内だから雇ってくれたのかも知れんけど、周り本当にすごい美人ばかり。30~40 の人はいない。容姿と年齢が採用基準にあると思う。

質問：Y 会社にはいったら、ずっと続けたいですか？それとも Y 会社に入って何年かして自宅でひらきたいですか？

B22：みんな両方(Y 会社と自宅)しよう。殆どの人はそうした。そうしないと、殆ど収入がないから、自分も 略  
質問：Y 会社は少ない？

B23：今は少ない。ようけ受け持ち出したら、そんなことないけど。

質問：今はどのくらい？

B24：初任給は 5~8 万ぐらい。始めは週に 1 回 1 クラスしかもたんだらうから。(略)めっちゃめっちゃ運があるんよ。他の先生が辞めた時とか、産休で休んだ時とか、たまたま試験受けて受かれれば、すぐ仕事あるし。それに、春と秋に生徒募集の 1 枠を持っていて、生徒が多かったら儲かるし、2 人とかだったら少ないし、0 人だったら収入ないし。自分が受け持った年に集まるかどうかっていうのも運。それで、(略)次の年に進級する子が多いか少ないかにもよるし。たまたま、やる気のある子ばかりだったら、あれだし、体験だけってやめていく子ばかりだったら、収入なくなるし。

質問：先生はまだ試験を受けるなっているのですか？

B25：今先生とは、指導グレードとる事しか話していないな。前な、先生が「そろそろ試験受けんの？」っていわれたんだけど、「でもまだ指導グレードとらなくていいんですか。」っていったら、「じゃあもっと頑張りなさいよ！！指導がんばればいいで！！さっさと取り！！って。怒られた(略)私の当たる先生って、怖い人ばかり。

B:周りが怖い。みんなにおこられる。知り合いの先生とかに、あんたピアノやリー、教えたらうかって。

質問：もし Y 会社に入ったら、自分はどれくらい続けるつもりですか。

B26：入ったら当分やる。自分の中で成果がでるまで。(略)教える子が入賞しだしたらおもしろいかもしれんし。

質問：そのようなどろどろした事は嫌とっていませんか？

B27：嫌やな。でも自分がしだしたら面白いかもしれん。しんだいけど挑戦したい。(略)結婚してやめるとかいう人は少

なくなってる。赤ちゃん産むときも当然休業がとれて、自分が好きなだけとれる。母乳離れるくらいまで取る人もいるし、産んで即効復帰する人もいる。今はこっちの方が多いな。

質問：自分はどうだとおもいますか？

B28：結婚せん。結婚しても復帰しそう。

#### <主要参考文献および参考 URL>

浅野智彦、1994、「自己物語はどのように人をとらえるか 神話としての自己物語」『現代社会理論研究』(4):1-12。

船津衛、1980、「準拠集団論」安田他編『基礎社会学 1 社会的行為』東洋経済新報社:92-114。

長谷川教佐、1984、「大学における社会化と準拠集団(1)」『麗澤大学紀要』37:185-214。

岩上真珠・宮本みち子、2003、『20代未婚者の仕事・結婚・親子関係 「成人期への移行に関する調査研究 Part -」』2003年度文部科学省科研費補助金成果報告書。

井上俊ほか編、1996、『ライフコースの社会学』岩波書店。

見田宗介、1979、「まなざしの地獄」『現代社会の社会意識』弘文堂:1-57。

三浦朱門・さらだたまこ、2001、『父と娘のパラサイト・シングル』KKベストセラーズ。

宮本みち子・岩上真珠著・山田昌弘、1997、『未婚化社会の親子関係 お金と愛情に見る家族のゆくえー』有斐閣。

宮本みち子、2000、「社会変動下の[若者と家族]研究の展開と方法 イギリス青年社会学を中心に」『家族社会学研究』12(1):95-109。

大久保孝治、<http://www.f.waseda.jp/ohkubo/2003S9-6.htm> 2003.6.4 掲載日、2003.10.2 閲覧日。

大村英昭、1993、「逸脱と社会変動」井上俊・大村英昭『社会学入門』放送大学教育振興会:109-117。

———、1997、『日本人の心の習慣 静めの文化論』日本放送出版協会。

桜井厚、2002、『インタビューの社会学ライフコースの聞き方』せりか書房。

竹内洋、1997、『立身出世主義 近代日本のロマンと欲望』日本放送出版協会。

渡辺祐子、1983、「準拠集団理論の問題点」『社会学論考』(4):1-22。

———、1989、「社会化メカニズムの分析枠組 準拠集団理論と同一視理論の検討」『駒澤社会学研究』21:127-151。

山田昌弘、1999、『パラサイト・シングルの時代』筑摩書房。

———、2000、「経済システムの変化と家族」『家族社会学研究』12(1):5-11。

#### <参考資料>

(総務省統計局 平成7年国勢調査 親子の同居等に関する特別集計結果 <http://www.stat.go.jp/data/kokusei/1995/22.htm> 2000.9.14 掲載日)

Y音楽教室パンフレット、2002、『講師資格取得試験内容及び課題例』